特定非営利活動法人がんピアネットふくしま

がんピア通信

令和３年11月号

Cancer Peer Net Fukushima
特定非営利活動法人 がんピアネットふくしま

〒960-0211
福島市飯坂町湯野字禿道19番地の2
TEL/FAX　024-563-5665

理事長挨拶

「絶え間のない支援を願って」

理事長　鈴木牧子

会員の皆様、日頃より当NPO活動にご支援・ご鞭撻をいただき、感謝申し上げます。
今年度も、上半期が過ぎ、当NPOでは、「令和3年度ピアサポーター養成講座」「ピアサポーターフォローアップ研修会」を、今後に予定しております。関係各位には、ご参加をよろしくお願い申し上げます。コロナ禍の中ではございましたが、出来る限りを尽くして、各地のサロンも開催させていただいております。各地担当をしてくださるピアサポーターの皆様には、本当にありがとうございます。また、今年度で、3年目になります県教育庁主体の「学校におけるがん教育」の取り組みに関しましては、ＮＰＯ内の「がんアドボケートスピーカー検討委員会」委員の皆様と、外部講師の立場として、県教育庁・県保健福祉部地域医療課からの担当者にも同席いただき、情報公開・意見交換を去る10月31日に行うことができました。
「福島県がんシンポジウム」は、広い会場で、対面での講演やミニコンサート実施、がん相談・お薬相談ブースも設けまして、9月11日に開催できましたこと、大変有意義なことであったと思います。多くの皆様には、スタッフ参加で、ご協力いただけたこと、本当に感謝申し上げます。昨年度来、コロナ事情で、急なサロンの休止などが、続いております。会場費・サポーター交通費などで、予算消化が出来ない分を、うまく有効利用したいことと、サロンにも参加できずにコロナの影響もあり、引きこもりがちながん患者の方にも声をあげていただきたく、令和2年度より「がん患者応援食糧支援ボックス」の配布を計画しました。昨年度は、2回に分けての配布で、延べ80件、今年度は、新聞社などメディアを活用して、一斉に呼びかけ、10月28日から11月5日までの申込期間で、80 名の方に送付できました。サロンに来てくださる皆様にも様々なお話を聞かせていただきますが、高齢や一人暮らし、シングルマザー、そして避難生活中という福島県ならではの実情も、この食糧支援のドアをノックされた方たちにはあります。皆様のお力を借りながら、今後も地道な活動を続けてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

当法人ホームページは、上記にあるQRコードを読み取っていただけると閲覧できます。
イベント情報や通常サロン開催の有無はもちろん、活動内容についても載せています。ご覧ください。
・令和３年11月現在・がんピアネットふくしま会員数：67（団体・賛助団体含む）
皆さまのご支援・ご協力感謝申し上げます。

活動報告

第4回福島県がんシンポジウム

9/11(土)　福島市子どもの夢を育む施設こむこむ わいわいホール

第4回目のシンポジウムは、2部制とし、第1部は先生方の講演、第2部は、コロナ禍で頑張っている皆さまへ癒しと医療者への感謝の意を込めて、ピアノによるソプラノ歌手の独唱ミニコンサートを行いました。

第1部では、「福島県のがん対策とがん診療の課題」「真のチーム医療とは何か？」「小児・AYA世代がんの課題と解決に向けて」「医療ソーシャルワーカーの視点からの患者とその家族とのかかわりについて」の講演をそれぞれ4人の先生方にご講演いただきました。素晴らしいご講演ありがとうございました。参加者から「もっと聴きたかった」「対面で直接、先生方のお話が聴けて嬉しかった」という感想をいただきました。

第2部のミニコンサートは、ピアノとソプラノ歌手の繊細で力強い演奏と素晴らしい歌声が心に沁みました。特に「空を見上げて」という曲では、涙が零れた方もいらっしゃいました。

今回は、参加したくても来られなかった方や再度観たい方のためにYouTubeに先生方の講演とミニコンサートをアップしました。プログラムも同封しますので、「福島がんシンポジウム2021」で検索して、ぜひご覧ください！

特設サロン

夕方サロン in 福島

9/28(火)　福島市市民会館

福島市の「まん防（蔓延防止等重点措置）」が解除になってからの特設サロンでした。感染症対策もしっかり行い、時間も 60 分と時短で行いましたが、参加者の皆さんと自身の近況や同月に開催した福島県がんシンポジウムの内容についてなどが、話題に上りました。マスクはしておりましたが、笑顔あふれる和やかなサロンでした。

ペイシェントアドボケートスピーカーを育てる検討委員会

10/31(日)　福島テルサ

福島県のがん教育の進捗やモデル校での実施状況について福島県教育庁の浦川指導主事よりお話をいただき、その後、外部講師として依頼された際の注意点等について話し合いました。

食料支援ボックス

今回で３回目となります、福島県在住のがん患者さんとそのご家族への「食料支援ボックス」の募集を10/28～11/5 に行いました。新聞やラジオ、ネットニュースで広報し、日付が変わった瞬間からメールやFAX やはがき、日中は電話がたくさんかかってきていました。

お電話いただいた方からは、病状や現在の体調、生活状況などをお話いただき、不安や悩みを抱えている人がこんなにもいることを知りました。勇気をだしてお電話をくださった方への発送は、80 個となりました。

お申込みいただいた母子家庭の方、帰宅困難区域で避難中の方、若い方、ご夫婦でサバイバーの方など様々な事情を抱えた、がん患者さんとそのご家族へ１日でも早くお届けできるよう、ほぼ毎日、発送していました。

届いた方から感謝を伝える電話やメール、お葉書をいただきましたので、一部紹介したいと思います。
少しでも力になれたこと大変嬉しく、私どもの活動もさらに頑張って行こうという力が湧きました。

To　office@cpn-fukushima.net
受信日時　2021/11/04 木 13:18

[件名なし]

こんにちは。
この度は、食料支援ボックスを送って頂きまことにありがとうございました。
心のこもった沢山の食料品の数々で本当に嬉しかったです。
自分に自信が無くなり孤立しがちでしたが、がんピアネットふくしま様のサロンやイベントに参加させて頂きたいと思います。
気温差が激しいこの頃ですが皆様も身体に気をつけお過ごし下さい
本当にありがとうございました。

To　がんピア事務局
受信日時　2021/11/03 水 17:20

[件名なし]

本日、食料支援ボックス受け取りました。

外泊中でタイミング良く、荷物を受け取る事ができました。

リンゴ、フルーツ、ふりかけ、お米等々、子供も好きな物ばかり。

また、治療中の為、生禁食なので、パック入りのフルーツ、小分けの物でとても有り難いです。

外泊中美味しく頂きたいと思います。
ありがとうございました。

支援ボックスが届きました。細やかなお心遣いに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。また、頑張る勇気や元気をいただきました。

今、抗がん剤の副作用で体調が悪く、動けない状態の夫を看ていて、そんな折、真心のこもった食料支援ボックスが届き、夫婦共々嬉しくなりました。本当にありがとうございました。

＊　＊　＊　＊　＊

お知らせ

― 特設サロンのご案内 ―

夕方サロン in 郡山

日　時：2021 年 11 月 19 日(金)
18:00～19:30(90 分)
場　所：郡山市労働福祉会館
参加費：500 円(お弁当・飲み物代)
申込期間：2021 年 11 月 17 日(水)
◆お申込みは、がんピア事務局まで。

― 養成講座のご案内 ―

第 12 回
福島県がんピアサポーター養成講座
日　時：2021 年 12 月 11 日(土)
10:00～15:00
場　所：福島市市民活動サポートセンター
募集人数：10 名
参 加 費：無 料
◆お問い合わせは、がんピア事務局まで。

おまちしています

学会参加報告

第 80 回　日本癌学会学術総会　SSP プログラム参加報告

がんピアネットふくしま　ピアサポーター　箭内明美

9/30～10/2 にかけて癌学会、サバイバー・科学者プログラム（略称 SSP プログラム）に初めて参加させていただきました。

このプログラムは「がんとの闘いを加速するために、サバイバー・患者会リーダーと科学者のパートナーシップを作る」ことを目的とし、がんサバイバー・患者支援団体リーダーと科学者の協働を深め、がん研究の成果をより迅速にがん患者に届けることを期待して開催されています。

今回の SSP プログラムには全国より九つの患者団体の参加があり、3 日間各分野のスペシャリストの先生より講義をいただきました。

「がん研究の歴史」や最近良く耳にするようになった「がんゲノム医療」。

ゲノム医療の中でも新しい治療法として研究が始まっている「合成致死療法」（私は初耳でした）。

ダヴィンチで知られている「ロボット支援手術」について。

医療現場のデジタル化により可能になった「がんの遠隔病理診断のメリットやデメリット」。

コロナの影響で皆さんもご存じの「ウィルスの脅威とがん」について。

避けては通れない「老化とがん」について。

一見すると難しい内容ばかりですが、研究者の先生方は動画や写真、データなども織り交ぜながら私たちにも分かりやすいスライドと言葉でお話ししてくださいました。

どの講義も大変興味深く、50 分という講義時間があっという間に感じるほどでした。

さて、SSP プログラムではグループごとにテーマが与えられ、3 日間の学びを通して最終日に研究者の先生や参加者の前でプレゼンテーションを行うというプログラムがあります。そのプログラムのための 3 日間と言っても過言ではありません。

グループ 1 のテーマは「ゲノム医療に基づいたコンビネーションセラピー」

私たちグループ 2 のテーマは「最新の工学技術を利用した医学の進歩」でした。工学と医学。一見すると遠いもののようですが、医工連携の治療技術は多くの医療現場で活躍しています。例えば、CT や MRI などの画像診断の装置やロボット支援手術もそうです。とは言え、私たち患者が実際に医工連携の治療技術について考える機会は多くはないので、まず調べることから始まりました。S SP プログラムのスケージュールの合間や一日の日程が全て終了してから、または始まる前にグループで集まり討論を重ね、プレゼンテーションの資料を作り上げます。最終日にはプレゼンテーションの仕方（話し方）などのご指導もいただき、グループ全員で発表をしました。

最初はメンバーそれぞれが違う考え・主張があり、このままとまらないのでは？と心配になるほどでしたが、最終的には素晴らしいプレゼンテーションになったと思います。終わった後には達成感や充実感、何よりもホッとして涙が出てきそうでした。大変ハードな内容でしたが、多くの面で勉強になりました。

ところでロボット支援手術『ダヴィンチ』は福島県内にいくつの病院にあると思いますか？私の調べたところによると福島県立医科大学付属病院をはじめ五つの病院にあるようです。現在 14 種類の治療が保険収載されており、今後さらに拡大される予定だそうです。

次ページへ続く

プログラムの中に、所属団体の活動紹介のポスター発表もありました。鈴木理事長にご指導いただきポスターを作成しました。活動からみたがん研究への期待を含むという指示がありましたので『がん研究とピアサポート活動の共通点～あなたの笑顔がみたいから～』という表題で私たちの活動を発表させていただきました。ピアサポートサロンの様子や先日行われた福島県がんシンポジウム、食糧支援ボックスなどを紹介し、ご参加の先生より「とても心温まる活動で、若い方からご年配の方まで誰も置き去りにしないという努力が見られ、大切な活動だと感じました。写真の皆さんの笑顔がとても印象的で感動しました。ぜひこれからも頑張ってください。」と大変励みになる言葉をいただきました。

参加前は緊張と不安でいっぱいでした。自分自身の勉強不足を実感し反省点も多くありますが、がんの研究について多方面からたくさんのことを学び、全国の患者支援団体の方とつながることもできました。さらにプレゼンテーションの仕方まで学ぶこともできた大変貴重な経験でした。
今後、皆さんに還元できればと思います。

第 59 回日本癌治療学会参加報告

がんピアネットふくしま　ピアサポーター　大内直美

10 月 21,22,23 日の 3 日間にわたり、第 59 回日本癌治療学会の PAL プログラムに初めて WEB（zoom 会議）で参加をさせていただきました。初めて参加の為ベーシックコースを選択致しましたが、3 日間のプログラムは大変内容の濃いものでした。

日本癌治療学会の PAL プログラムは 2009 年横浜で開催された第 47 回学術集会から開始され、患者・家族と医療従事者が同じ目線で、共に考え、協同して、最良の治療が実践されるよう、さらに将来のがん治療をより良いものにすることを目的として継続されてきました。10 年以上続く歴史と伝統のあるプログラムへと発展し、今年の本学会のテーマである「形、機能、命を守る」においてもこのＰＡＬプログラムは重要な位置づけとなりました。

私が参加したベーシックコースでは、オリエンテーションを行った後、必須プログラムである「Meet in PAL」「PAL セミナー①、②、③」「ラウンドテーブルディスカッション入門編」とプログラムがびっちり企画されており、またその都度意見交換があり、zoom でセミナーを受けるだけではなく、自分から能動的に参加をしなければならないものでした。

1 日目の Meet in PAL①では「PPI（医学研究・臨床試験における患者・市民参画）とは」と題したセミナーで、お恥ずかしながら PPI という言葉を初めて耳にしたものですから、大変勉強になりました。

次に PAL セミナー①は　「がん医療におけるインフォームドコンセントと」と題したセミナーで、インフォームドコンセントには診療のＩＣと研究のＩＣがあり、自分が今まで受けてきたＩＣは患者個人のライフプランが尊重されており、一方、研究のＩＣは社会貢献という側面があることを学びました。

1 日目の最終必須プログラムである、「ラウンドテーブルディスカッション入門編」では同意説明文書をチェックしてみよう！というもので、事前に配布されている同意説明文書の資料を頭に入れておき、各ブレイクアウトルームに分けられ、それぞれ気が付いた部分について意見を言うものでしたが、

参加をしていた様々な患者団体の皆さんはより積極的で、なるほどと思う箇所を次々と指摘され、さすがだと感心し、勉強になったプログラムでした。

2 日目の Meet in PAL②では「がんとこころ」と題して、精神腫瘍科の先生のセミナーでした。私が一番関心を持っていたプログラムです。言葉で言うのは簡単ですが、①人生に対する感謝（一日一日を大切に生きていることに感謝）②新たな視点（生きがいを持つこと）③他者との関係④人間としての強さ⑤精神性的変容の 5 つが大切であり、がん体験との向き合い方、つまり自分のがん体験を人に話すことで自分のこころを整理することだと学びました。

ＰＡＬセミナー②では「患者団体が知っておくべきがん情報の扱い方」～情報リテラシーを高めるために～と題した内容で、自分自身が様々な情報を正しく読み解く能力を身に付け、私たち患者団体の人たちが情報のハブになるということを学びました。

「ラウンドテーブルディスカッション上級編」は必須プログラムではなかったので、どのような内容なのか興味があり観覧希望しました。模擬倫理委員会の内容を審査するもので、臨床試験に関する説明文書、いわゆる、治験に参加する際の膨大な説明文書の中身を審査するのですが、さすが上級編を選択されただけあり、私が観覧参加したブレイクアウトルームの皆さんは専門的な知識まで把握していてすごいと感じました。

3 日目最終日は、ポスター参加した 11 団体の発表でした。それぞれ特色があり、発表内容もコロナ禍における活動が多く、今やれることを頑張ってやるという印象の発表が多かったです。

ＰＡＬセミナー③は、社会連携・PAL 委員会委員意見交換会が行われ、「コロナ禍でのネットワーク作り」について様々な意見が述べられました。

最後に初めて PAL プログラムに参加した感想を求められたので、がんピアネットふくしまでの活動として、コロナ禍でも切れ目のないピアサロン活動を模索し継続していること。また、万全な感染対策を講じた上で今年もシンポジウムを開催し、ミニコンサートにより癒しも届けられた旨を報告させていただきました。

3 日間を通しての感想は、とにかく全国の患者団体の皆さんはとても熱心に PAL プログラムに参加されていました。しかし皆一様にコロナ禍でも、どのようにしてピア活動を継続させて行くかを模索しながらの日々なのだなと感じました。都市部と地方とでは活動の仕方（オンラインや対面のサロン）に違いはあっても、目指す方向は一緒で、常にがん患者・家族に寄り添い、将来のがん医療をよりよいものにするということです。PAL 委員会の委員長である市立豊中病院の冨田先生が最後に「学会の PAL プログラムは基本座学ではあるが、PAL プログラムに参加している皆さんは、自分で情報を取りに行き、発表している。これからはこういった能動的な姿勢が大切」とおっしゃっていました。私自身、今回この学会に参加して様々な情報や知識を得ることができたので、これらのことを整理し、皆さまに少しでもお伝えできたら嬉しいです。

＊編集後記＊　1年ってあっという間ですね。特に今年は早く感じている遠藤です。「早め早めの行動を心がける」という目標を掲げていましたが、あまりできませんでした。毎年反省しています。慌てることなく、余裕をもってイラストのワンちゃん（うちの愛犬に似てます）のようにほっこりするのが目標です！
暦の上ではもう冬です。朝晩冷えます。あったかくして元気にお過ごしてください。